

令和6年度全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査の結果の公表にあたって

武雄市教育委員会

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組めます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思います。児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、小学6年生、中学3年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県学力学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

H31 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県 (4 月)	全国 (4 月)	県 (4 月)	全国 (4 月)
	64.5	63	61.0	61
	(0.96)	(0.95)	(0.99)	(0.98)
R 6 正答率の全国比		0.93		0.96

◎ 5 年時は佐賀県学習状況調査、6 年時は全国学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

◎ 「令和 6 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・国語は、5 年時、6 年時ともに県平均をやや下回っている。算数は、5 年時、6 年時ともに県平均をわずかに下回っている。どちらも全国平均との差はさらに開いてしまうが、今後の伸びに期待したい。
- ・国語は、内容別では「情報の扱い方に関する事項」が 92.8%の正答率で、県や全国よりも高かった。問題形式では、選択式は良いが記述式の正答率が低く、書く活動を日ごろから取り入れる必要がある。
- ・算数は、領域では「図形」「データの活用」がよくできており、県平均を上回っている。問題形式では、国語と同じ傾向が見られ、選択式は良いが記述式の正答率が低く、ここでも「書く力」が必要である。
- ・児童質問紙によると、家庭での学習時間が少ないことが言える。平日 1 時間以上学習している児童は 25.3%であり、県の 47.4%と比較しても大幅に少ない。同じく休日では本校 30.9%、県 43.9%である。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・算数は、時数の差はあるものの全学年に加配教員が入り、TT や少人数授業を実施しており、指導体制に恵まれている。授業支援はもちろんのこと、教材作成や採点、休み時間の個別支援等も分担する。
- ・夏季休業中に、職員研修として講師招聘のもと、県学状と全国学状の分析・考察をする機会を設けた。講師の的確な指摘と助言を受けて、これまでの指導を振り返り、今後の具体的な指導の指針をもてた。
- ・教職歴の浅い教員が多い本校であるが、校内研究、市教研、初任研等の機会を活用して積極的に研修に励んでいる。「見て見て授業」と称する若手教員の自主的な授業研究会も開かれ、指導方法をお互いに模索し合う頼もしい雰囲気がある。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・「名前札強化週間」や「筆箱チェック週間」の設定、朝の「立腰タイム」と授業前後の「立腰」など、基本的な生活習慣や学習習慣の定着の一助とし、落ち着いて生活や学習に臨む態度の育成を目指している。
- ・市の取組である「花まるタイム」を火・木・金曜日の朝の時間に位置づけ、担任、級外、地域支援員、保護者と校区をあげて取り組んでいる。児童の励みにもなり、15 分間を有効活用できている。
- ・全校で統一した指導ができるように各学級の電子黒板にパワーポイント資料を保存している。「立腰」「机の上スッキリ」「筆箱の中スッキリ」「算数ノートの約束」などを使って指導しやすいうに努めている。また、「算数ノートのやくそく」「クロームブックのルール」など紙資料もそろっている。